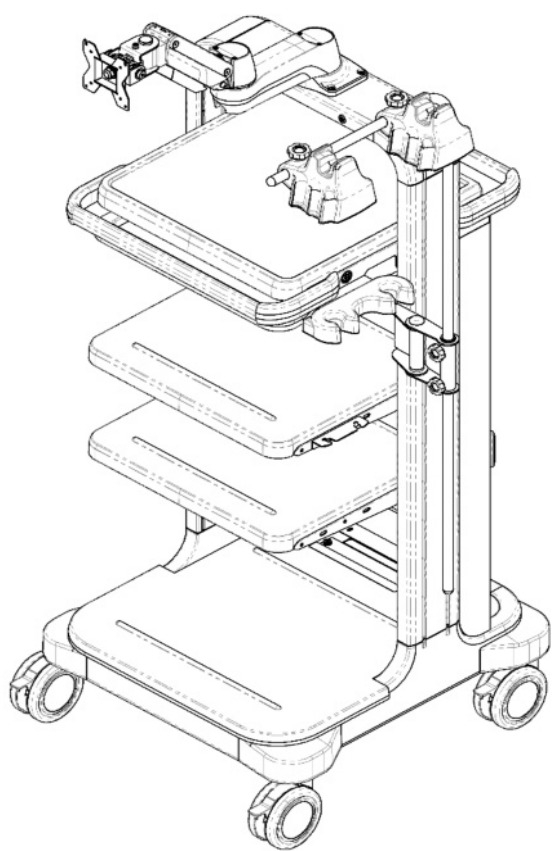
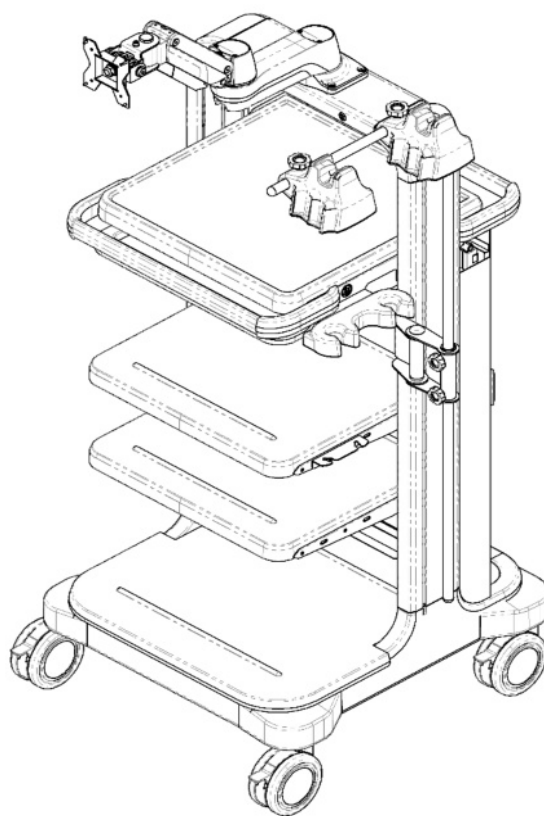


システムカート PC-010/PC-020



PC-010



PC-020

取扱説明書

目次

目次

はじめに	-----	1
表記の規則	-----	1
第1章 安全についての大切なお知らせ	-----	2
1.1 使用目的	-----	2
1.2 安全	-----	2
1.3 警告	-----	2
1.4 設置	-----	2
1.5 機器の組み合わせ	-----	4
1.6 臨床手技について	-----	4
1.7 使用前の点検	-----	4
1.8 高電圧	-----	4
1.9 異物・液体	-----	4
1.10 メンテナンス	-----	4
1.11 カートの移動	-----	4
1.12 電源の復帰	-----	5
第2章 各部の名称と機能	-----	6
第3章 機器の設置	-----	8
3.1 可動棚の移動	-----	8
3.2 キーボードストッパー位置の調整	-----	9
3.3 高荷重アーム、及びモニターの設置	-----	9
3.4 コネクタハンガー、及びスコープハンガーの着脱	-----	11
3.5 背面パネル、及びコンセントカバーの着脱	-----	12
3.6 グロメットからホース等の引き込み	-----	13
3.7 電源の接続	-----	14
第4章 使用方法	-----	16
4.1 カートの固定	-----	16
4.2 スコープハンガーの高さ調整	-----	16
4.3 カートの移動	-----	17
第5章 オプションの取り付け	-----	19
5.1 シリンダーホルダー	-----	19
5.2 追加ドロワー	-----	21
5.3 サイドポケット	-----	22
第6章 保管とメンテナンス	-----	23
6.1 使用後のお手入れ	-----	23
6.2 保管するには	-----	23
付録	-----	24
主な仕様	-----	24

はじめに

はじめに

この取扱説明書は、システムカートPC-010及びPC-020の使用方法について説明します。




本製品は、内視鏡プロセッサ、光源装置、超音波観測装置、および各種周辺機器と組み合わせて使用します。

各機器及び各周辺機器の使用方法は、それぞれの取扱説明書を参照してください。

表記の規則

本取扱説明書では、操作の説明をわかりやすくするために、本文中では次のような表記の規則を使っています。

■一般の表記

表記	説明
	潜在的に、人に危害を与える危険を示す記号です。
 警告	回避しないと、死亡事故または重傷を招く可能性がある危険な状況を説明します。
 注意	回避しないと、軽傷または中程度の傷害を招く可能性がある危険な状況を説明します。
注意	回避しないと、機器の損傷を招く可能性がある危険な状況を説明します。
※	注釈や補足を示します。

安全についての大切なお知らせ

第1章 安全についての大切なお知らせ

1.1 使用目的

本製品は、内視鏡プロセッサ、光源装置、超音波観測装置、および各種周辺機器の設置、移動、保管を目的としています。
この目的以外には使用しないでください。

1.2 安全

ご使用になる前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、充分理解されてから、指示に従ってご使用ください。尚、個々の操作や処理における安全上の事項は、それぞれの項目に「△ 警告」「△ 注意」と示してあります。

1.3 警告

内視鏡検査および処置手術を行う上で、安全上特に守っていただくかなければならない事項は、「△ 警告」「△ 注意」と識別表示してあります。警告情報をよく読まれ、理解されてから正しい手順で行ってください。

警告

誤った使用や操作は、患者・術者または装置の近くにいる人を傷つけるおそれがあります。
この取扱説明書の内容をよく読んで理解してから使用してください。

※誤った使い方をしても機器の損傷だけで済む場合は、「注意」と識別表示してあります。

1.4 設置

感電事故や火災、機器の落下を防止するため、次の注意事項をお守りください。

- 1) 本システムは、取扱店サービスマンが設置を行う構造となっています。サービスマン以外の方は、設置を行わないでください。
- 2) 感電事故の防止
 - ・電気手術器等、他の装置の電源は、カートからとらないでください。
 - ・2台目のカート電源を1台目のカートからとらないでください。
 - ・3芯2芯変換プラグは、確実な保護接地ができないため、使用しないでください。
 - ・カートのコンセントには、システムを構成する機器以外は、つながないでください。
- 3) 周辺機器の落下防止

注意

機器が落下するおそれがあります。
周辺機器を重ねて載せないでください。
周辺機器の足が、棚板の内側に確実に収まるように載せてください。

4) 機器の設置

 警告

火災、感電の原因となります。

電源は、AC100Vをお使いください。

本製品を接続するコンセントの電力容量が、本製品を含めた本製品に接続される機器の電力の合計よりも大きいことを確認してください。

本製品の電力容量が、本製品に接続される機器の電力の合計よりも大きいことを確認してください。

周辺機器を使用する場合には本製品の絶縁トランスを介した周辺機器用のコンセントに接続してください。

接続する周辺機器の電力容量の合計は絶縁トランスの出力容量以内としてください。

カートのプラグ及びコンセント、接続機器のプラグは定期的にはほりを取ってください。

感電事故を起こすおそれがあります。

電源プラグは、保護接地付コンセントに接続してください。

医用安全規格に適合した周辺機器を使用してください。


延長コードを使用して電源の接続をしないでください。

電源コードは絶対に濡らさないでください。

電源コードに無理な曲げ・ひっぱり・ねじれなどの力を加えないでください。

火災や爆発を起こすおそれがあります。

可燃性ガス雰囲気中では使用しないでください。

 注意

機器や棚板が落下してケガをするおそれがあります。

棚板の移動や機器の設置は、2人で行ってください。

棚板の移動や機器の設置は、カートのキャスターをロックして行ってください。

各棚に許容荷重以上の機器を載せないでください。

本製品に搭載する機器の合計荷重は、本製品の合計最大許容荷重以内としてください。

高荷重アームに搭載するモニターは、許容荷重以内のものとしてください。

カートが転倒し、怪我をするおそれがあります。

カートの高荷重アームにモニターを取り付けただけの状態(内視鏡プロセッサ、光源装置、超音波観測装置等の装置を搭載していない状態)では使用しないでください。

モニターはカートの正面に向けて使用してください。

高荷重アームの位置は、カートを横から押した場合でも安定性を保てる位置に固定してください。

カートに寄り掛かったり、キャスターをロックした状態で前後や横方向に押ししたり、傾けないでください。

機器の設置は重心がカートの中央付近になるよう、十分配慮してください。

注意

定格を超えると自動的に電源が切れます。

接続する機器の定格出力を確認の上、必ず定格以内で使用してください。

落下のおそれがあります。

モニターはカートに固定して使用してください。

転倒や破損の原因となります。

振動や衝撃のない水平な場所に設置してください。

安全についての大切なお知らせ

1.5 機器の組み合わせ

本製品に搭載する内視鏡プロセッサ、光源装置、超音波観測装置は、周辺機器と組み合わせて使用します。感電事故を防止するために、取扱店サービスマンが推奨しない周辺機器は絶対に使用しないでください。

1.6 臨床手技について

本製品は、内視鏡の手技について十分な研修を受けられた方がご使用になることを前提としております。この取扱説明書では、臨床手技には立ち入っておりません。臨床手技については、諸先生方のご専門の立場から判断していただくようお願いいたします。

1.7 使用前の点検

不測の事態を回避し、機器の性能を十分に発揮してお使いいただくために、異音やぐらつきなどがなければ、使用前の点検を行ってください。点検の結果、異常があった場合は使用せず、直ちに取扱店にご連絡ください。

1.8 高電圧

本機の内部には、電圧の高い部分があります。取扱店サービスマン以外の方は、内部に触れないでください。

1.9 異物・液体

内部に異物や水、薬品などが入ると火災・感電の原因となります。万一内部に液体が入った場合は、直ちに使用を中止し、電源プラグをコンセントから抜いて、取扱店にご連絡ください。

1.10 メンテナンス

長期間使用しておりますと、機器も傷んでまいります。少しでも機器に異常を感じた場合は、取扱店へご連絡ください。また機器の分解、改造は絶対に行わないでください。

1.11 カートの移動

注意

カートが転倒してケガをするおそれがあります。

カートの移動は2人以上で行ってください。

カートを移動させる際は、内視鏡は取り外してください。

キャスターのブレーキが完全に効かない場合があるため、傾斜面には設置しないでください。

カートの高荷重アームにモニターを取り付けたのみの状態（内視鏡プロセッサ、光源装置、超音波観測装置等を搭載していない状態）での移動はしないでください。

移動時は高荷重アームを移動姿勢（モニターがカートの中央付近になるよう）にし、付属のバンドで固定してください。

カートが転倒し、搭載機器が落下してケガをするおそれがあります。

カートを段差をまたいで移動させる場合には、段差に対してハンドルの左右側に1人ずつ配置し、キャスターが1つずつ段差を超えるように対角方向へ動かしてください。このとき、カートの転倒を防ぐために、段差に対して後側に1人配置してください。（段差の乗り越えは3人以上で行います。）

注 意

内視鏡が脱落するおそれがあります。

カートを移動させる際は、スコープハンガーから内視鏡を外してください。

水がこぼれて転倒し、ケガをするおそれがあります。

カートを移動させる際は、送水タンクを取り外してください。

1.12 電源の復帰

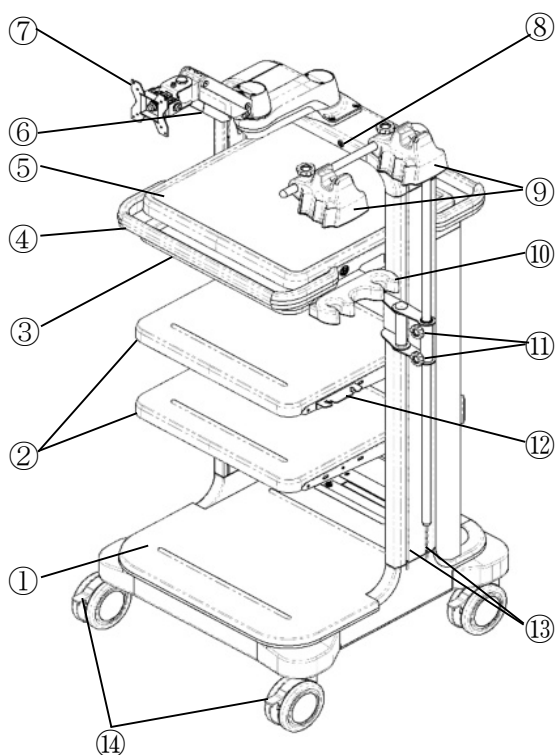
注 意

電源が正常に復帰できないおそれがあります。

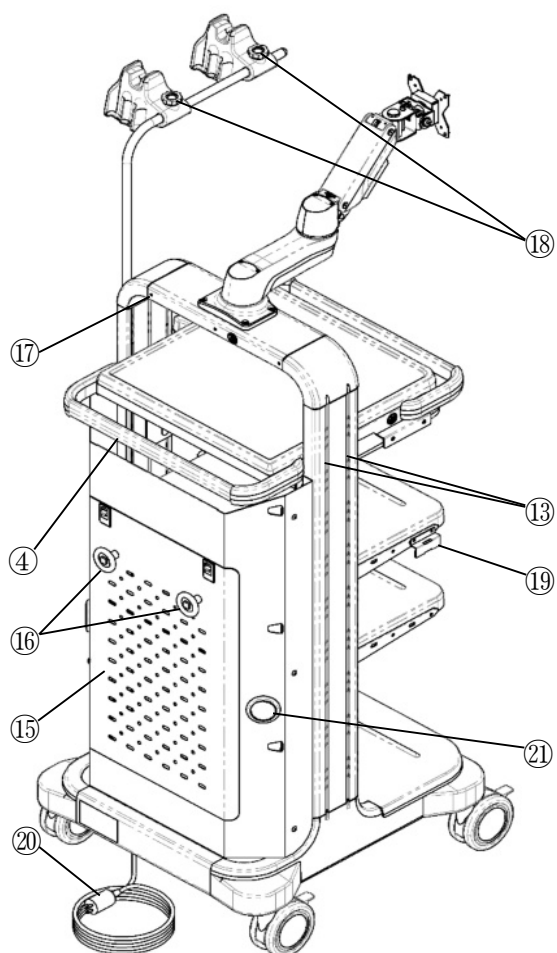
サーキットプロテクターを復帰する時は、電源スイッチをOFFの状態にし、電源プラグをコンセントから抜いてください。

サーキットプロテクターの復帰スイッチは、遮断動作後、10秒以上経過してから押してください。

第2章 各部の名称と機能

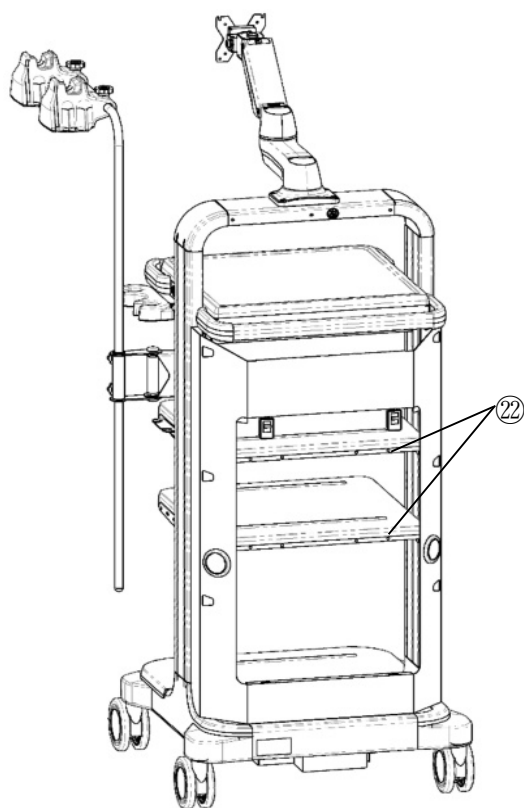


- ①底棚
周辺機器を載せます。最大24kgまで。
- ②可動棚
内視鏡用プロセッサ、光源装置、超音波観測装置、及び周辺機器を載せます。
最大36.5kgまで。
- ③キーボードトレイ
キーボードを載せます。
- ④ハンドル
カートを動かす時に使用します。
- ⑤トップトレイ
周辺機器、コップを載せます。最大10kgまで。
- ⑥アームケーブルフック
液晶モニターの各種入出力ケーブルを支持します。
- ⑦高荷重アーム
専用モニターを支持します。
許容荷重は6～15kg。
7ページに部品詳細を掲載しています。
- ⑧電源スイッチ
カートの背面コンセントの電源を入／切するスイッチです。
- ⑨スコープハンガー
内視鏡の操作部を掛けます。
- ⑩コネクターハンガー
内視鏡のライトガイドコネクターを掛けます。
- ⑪ハンガーロックつまみ
スコープハンガーの高さを調整する時に使用します。
- ⑫チューブホルダー
送水チューブ、吸引チューブを掛けます。
- ⑬オプション装着ガイド
別売りオプションを装着するためのガイドです。
- ⑭キャスターロックレバー
キャスターの回転をロックします。

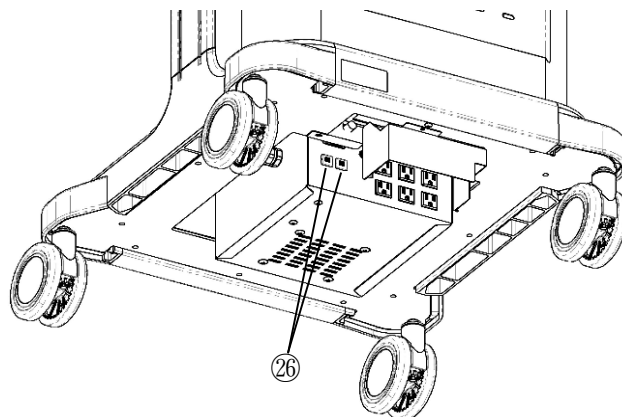
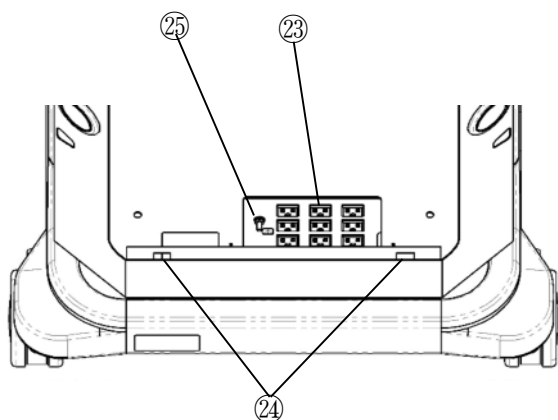
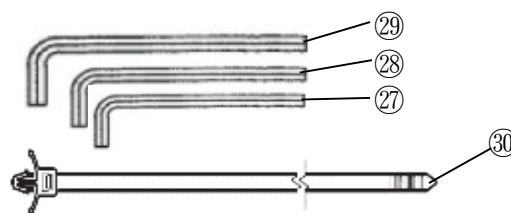


- ⑮背面パネル
搭載機器の配線部をカバーします。
- ⑯ケーブルフック
カートを移動する時に電源ケーブル等配線を巻いて掛けます。
- ⑰コードバンド取付穴
液晶モニターの各種入出力ケーブル、電源ケーブルを固定します。
- ⑱スコープハンガー固定つまみ
スコープハンガーを固定します。
- ⑲送水タンクフック
送水タンクを掛けます。
- ⑳電源プラグ
保護接地付きコンセントに接続します。
- ㉑グロメット
カッター等で切り込みを入れ、ホースを通す事ができます。

各部の名称と機能



- ②②コードバンド取付穴
液晶モニターや搭載機器の各種入出力及び電源ケーブル、LANケーブル等を固定します。
- ②③コンセント
カートに搭載する機器の電源プラグを接続します。
- ②④背面パネル固定穴
背面パネルの取付の時に下側を引っ掛けます。
- ②⑤等電位化端子
等電位プラグを接続します。
- ②⑥サーキットプロテクター復帰スイッチ
サーキットプロテクターを復帰させるスイッチです。
- ②⑦六角レンチ 対辺4mm、②⑧六角レンチ(長)対辺5mm、
可動棚の取り付け、取り外しに使用します(3.1参照)。
②⑦は別売りオプションの装着にも使用します。
(高荷重アームの箱に同梱)
- ②⑨六角レンチ対辺6mm
高荷重アームの調整に使用します。(高荷重アームの箱に同梱)
- ②⑩コードバンド
ケーブル類を結束し、①⑦・②②の穴に差し込みます。
(高荷重アームの箱に同梱)



高荷重アーム部品詳細

 アーム	 アーム固定ねじ(4本)	 モニター取り付けねじ(4本)	 モニター固定ベルト
--	--	---	--

第3章 機器の設置

3.1 可動棚の移動

 注意

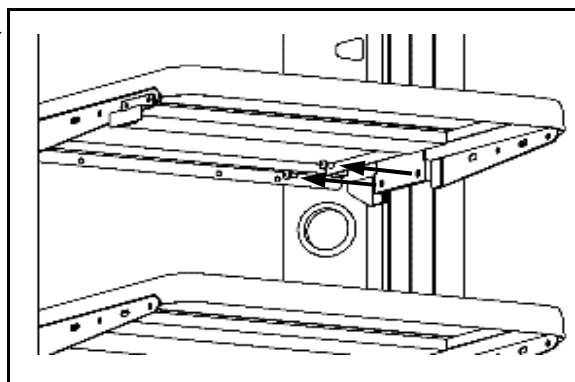
カートが転倒してケガをするおそれがあります。

棚板の移動や機器の設置時はカートのキャスターをロックしてください。

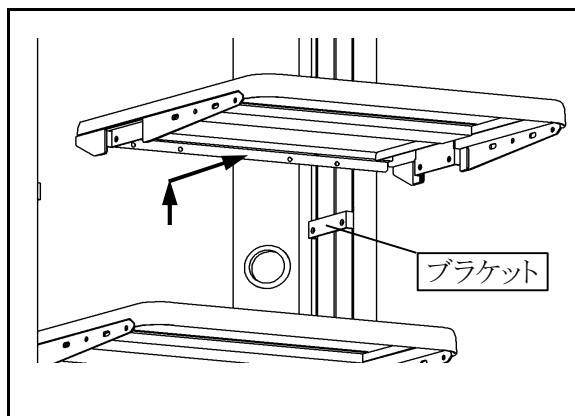
棚板や機器が落下してケガをするおそれがあります。

棚板の移動や機器の設置は2人で行ってください。

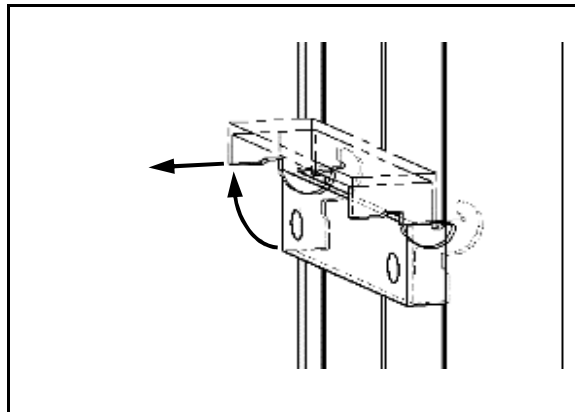
①ボルト4本を付属の六角レンチ(対辺5mm)をねじの六角穴にしっかりと差し込んで取り外します。



②棚板をブラケットから抜けるまで持ち上げ、カート前側へ引き抜きます。

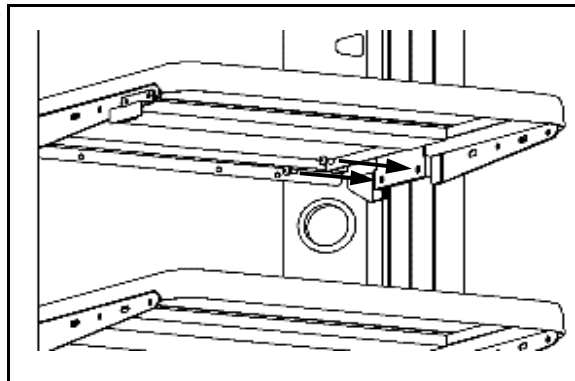


③ブラケットを希望の位置に移動します。ブラケットは右図の通り、下側を持ち上げて取り外し、任意の位置へ逆の手順で取り付けます。



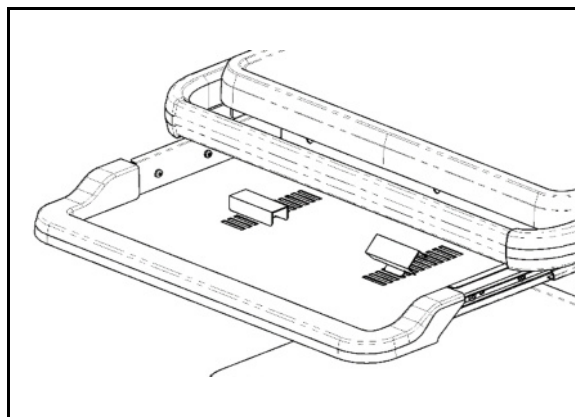
機器の設置

④ 棚板をブラケットに差し込み、4本のボルトを締め付けて固定します。



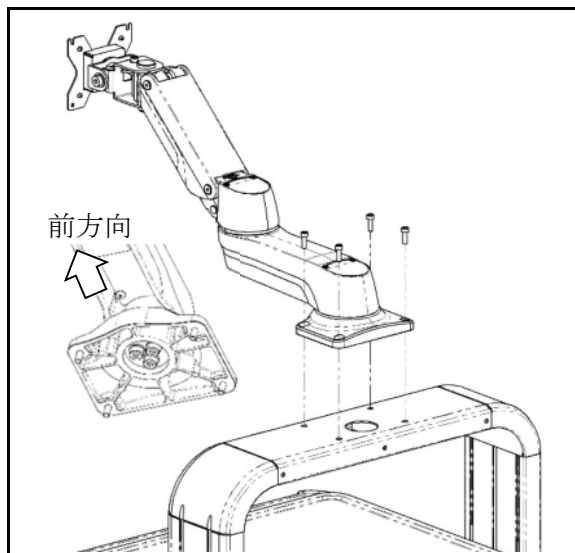
3.2 キーボードストッパー位置の調整

搭載するキーボードの大きさに合わせて、ストッパーの位置を調整します。
9mm間隔で調整が可能です。

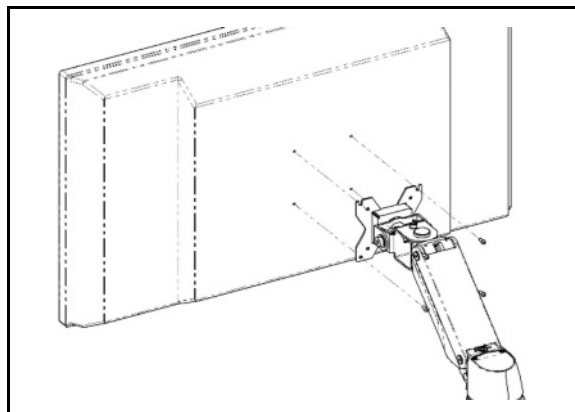


3.3 高荷重アーム、及びモニターの設置

① 付属のアーム固定ねじ(4本)で固定します。
高荷重アームのベース部分は膨らみのある方が前側です。

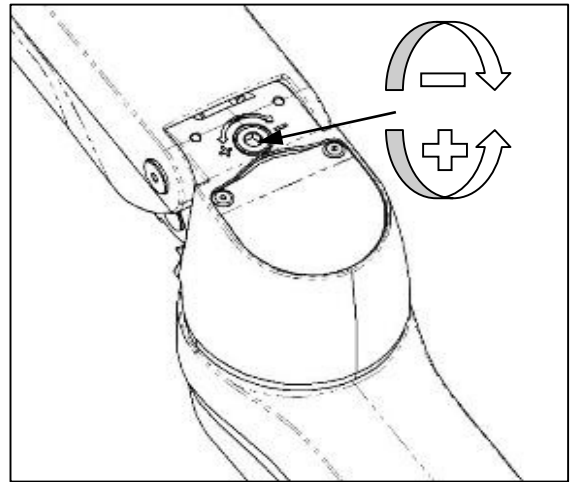


② 高荷重アームに付属のねじ(4本)でモニターを取り付けます。



機器の設置

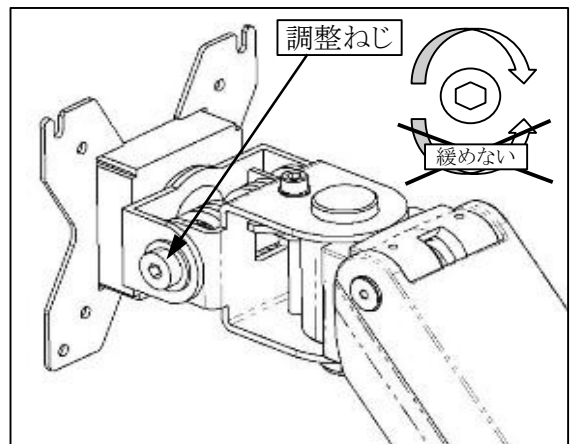
③出荷時に8.5kgのモニターにバランスが合うよう調整してあります。
その他重量のモニターを使用する場合には、モニターの重量に合わせてアーム上下のトルク調整を行います。
8.5kg以上のモニターを搭載する際には、図の+側(反時計回り)に回してください。



注意

高荷重アームが破損するおそれがあります。
締め過ぎに注意してください。

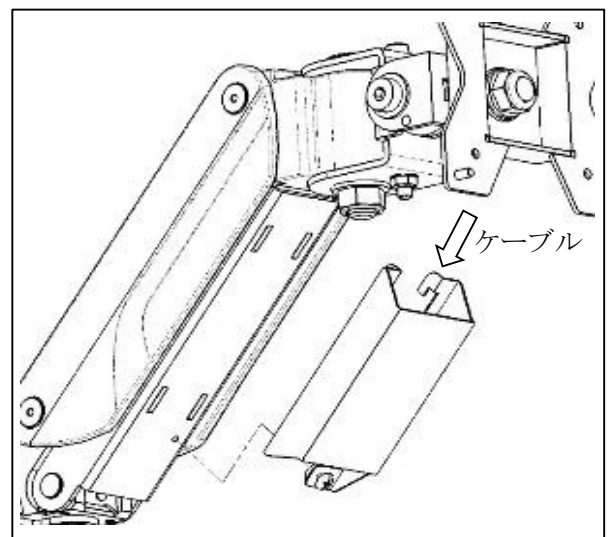
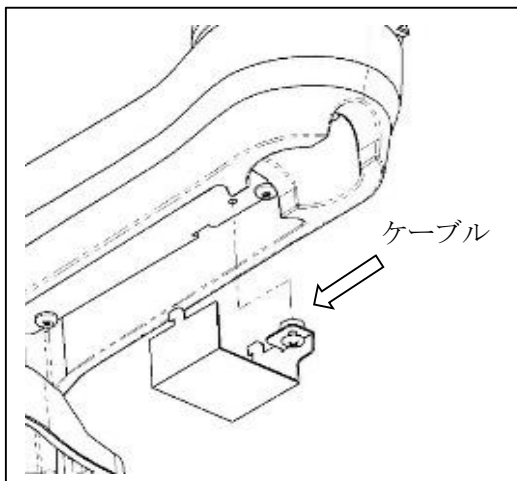
④出荷時に15kgまでのモニターにバランスが合うよう調整してあります。
取付けたモニターが下向き、または上向きになってしまう場合には、調整ねじの締め付けを強くしてください。この時、左右の調整ねじの締め付けが均等になるよう注意してください。
※取り付けしたモニターの重量が軽い場合でも調整ねじは緩めないでください。緩めるとモニターは勝手に上向きになります。



注意

高荷重アームが破損するおそれがあります。
締め過ぎに注意してください。

⑤ケーブルカバー内にケーブルを収納し、ケーブルカバーを高荷重アームの角穴に爪で引っ掛けた後、ねじ(脱落防止機能付き)で固定します。
※ケーブルはアーム可動範囲を考慮し、余長を持たせた状態で取り付けてください。



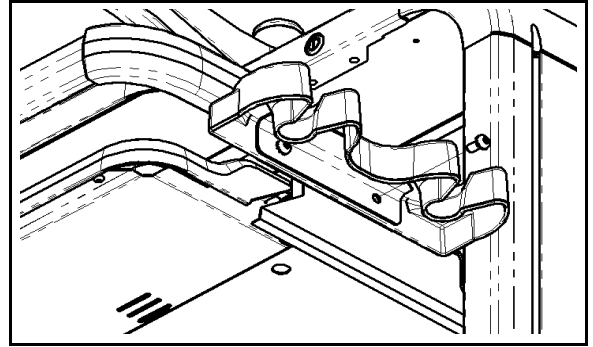
△ 注意

ケガをするおそれがあります。
軸近傍の隙間、及びチルト機構部に指等を挟まないよう、注意してください。

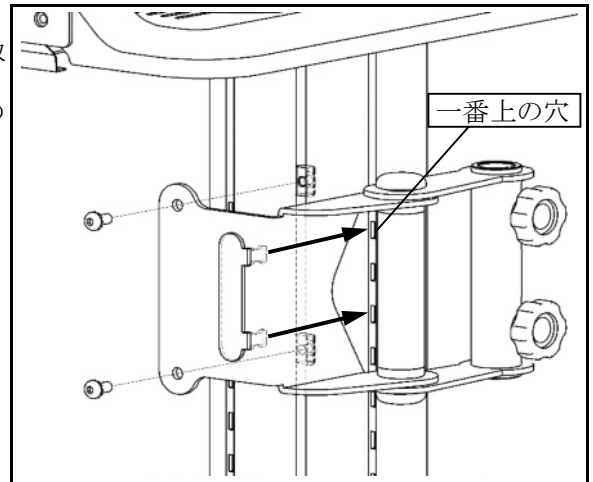
機器の設置

3.4 コネクタハンガー、及びスコープハンガーの着脱

①コネクタハンガーを付属の六角レンチ(対辺4mm)を使用して、本体に取付けます。取付け用のねじは左右両側の取付穴に取付けてあります。左側にも取付け出来ます。

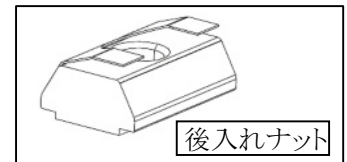


②ハンガーブラケットを付属の六角レンチ(対辺4mm)を使用して、支柱内側に取付けます。取付けボルトは向かって右側に取付けてあります。支柱のナットは上下に動かすことができます。支柱内側レールの一番上の角穴にスコープハンガーの上側の突起を入れてください。左側にも取付け出来ます。

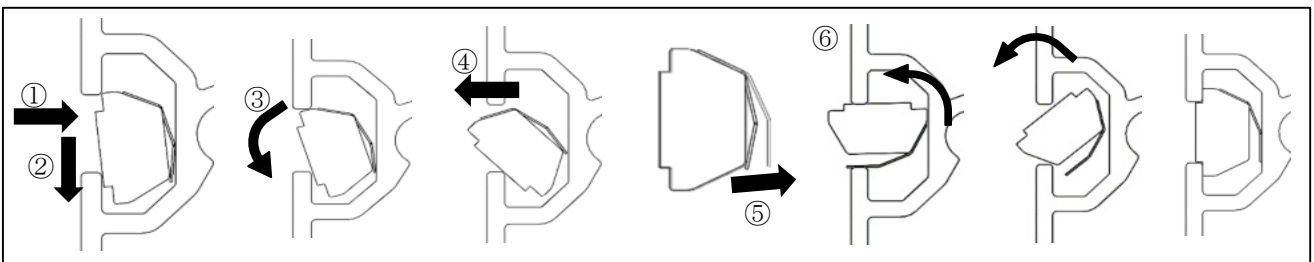


左側に取り付ける場合には支柱フレームの溝に入れてある後入れナットを取り外し、左側に取付けてください。

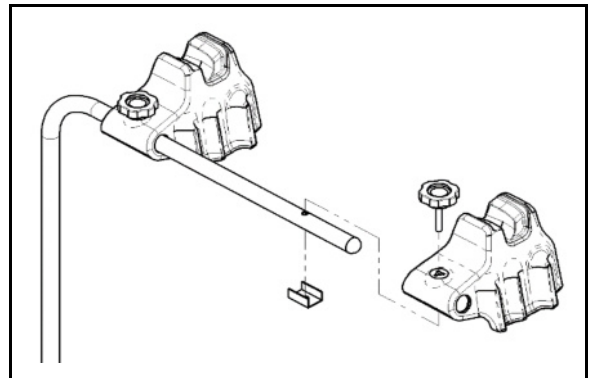
- ①後入れナットを押し込み、②手前側に引きます
- ③後入れナットの端が見えるまで回します
- ④後入れナットを引き抜きます



- ⑤板バネが後入れナット側に変形するため、2mm程度離れるように調整します。
- ⑥支柱フレームの溝へ取り付ける際には板バネが付いている方から入れ、回すように取付けてください。

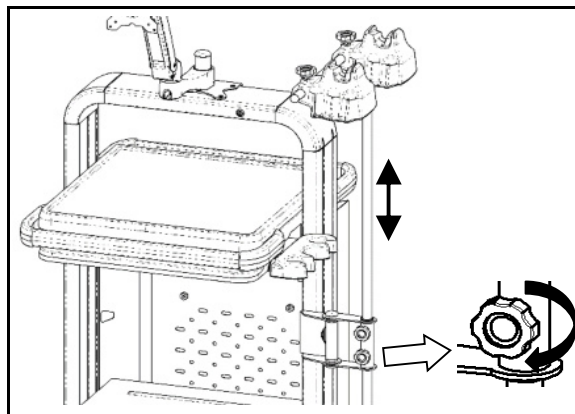


③スコープハンガーをハンガーポールに取り付けます。スコープハンガー固定つまみのねじをスコープハンガー及びハンガーポール穴に挿し、固定金具のナットへ締め付けてください。右図とは左右反対向きにも取付け出来ます。



機器の設置

④ハンガーポールをハンガーブラケットに差し込みます。ハンガーロックつまみを締め付けると、スコープハンガーを任意の高さで固定できます。



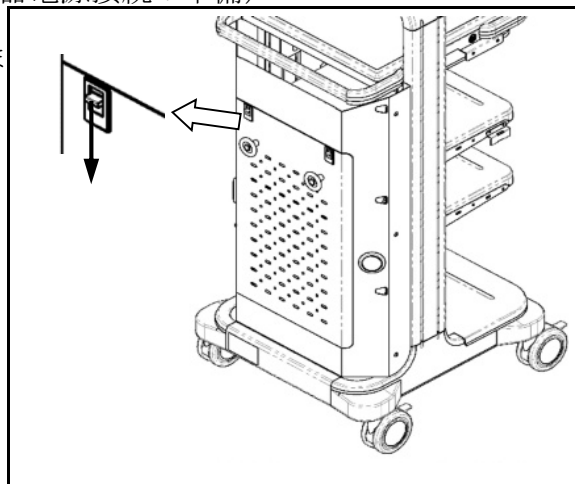
⚠ 注意

ケガをするおそれがあります。

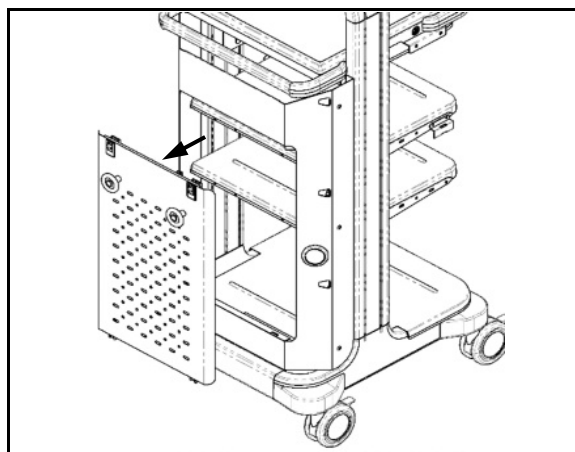
カートの支柱とハンガーポールとの間に指等を挟まないよう、注意してください。

3.5 背面パネル、及びコンセントカバーの着脱(設置機器電源接続の準備)

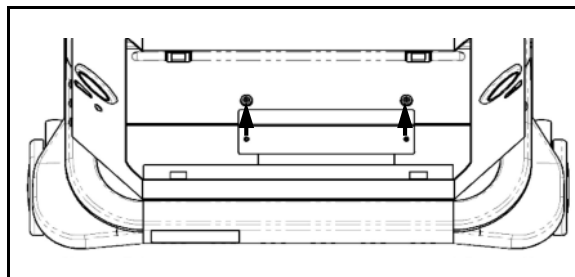
①背面パネルを保持しながら、左右のレバーを下方向に押し下ろします。



②背面パネルを取り外します。

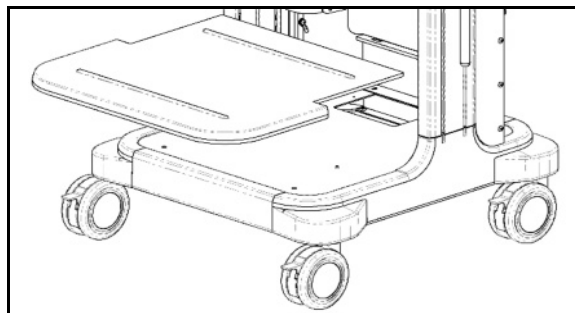


③コンセントカバー左右のねじをプラスドライバーを使用して取り外し、コンセントカバーを取り外します。



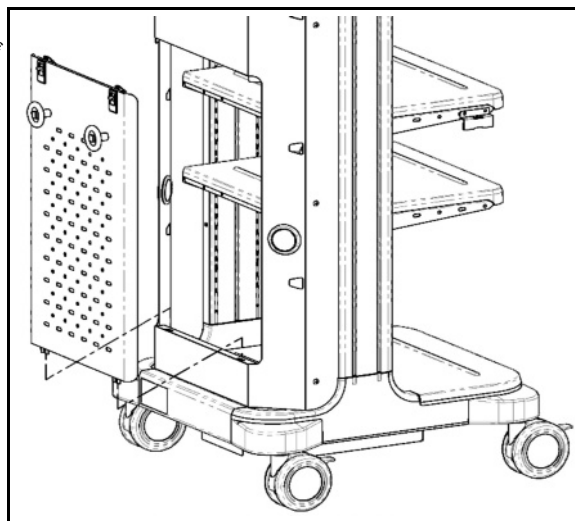
機器の設置

④面ファスナーで固定されている底棚を取り外します。



⑤設置機器の電源接続後、④及び③と反対の手順でコンセントカバー、底棚を取付けます。
設置機器の電源接続については「3.7電源の接続」を参照してください。

⑥取り付ける時は、背面パネル下側を背面パネル固定穴に差し込みながら背面パネルを保持し、レバーを上方向に引き上げます。

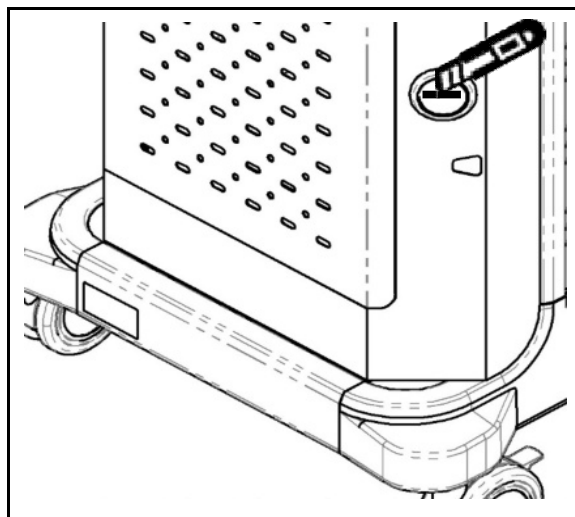


注意

カート及び設置機器故障の原因になります。
コンセントカバー及び背面パネルは必ず取付けて使用してください。

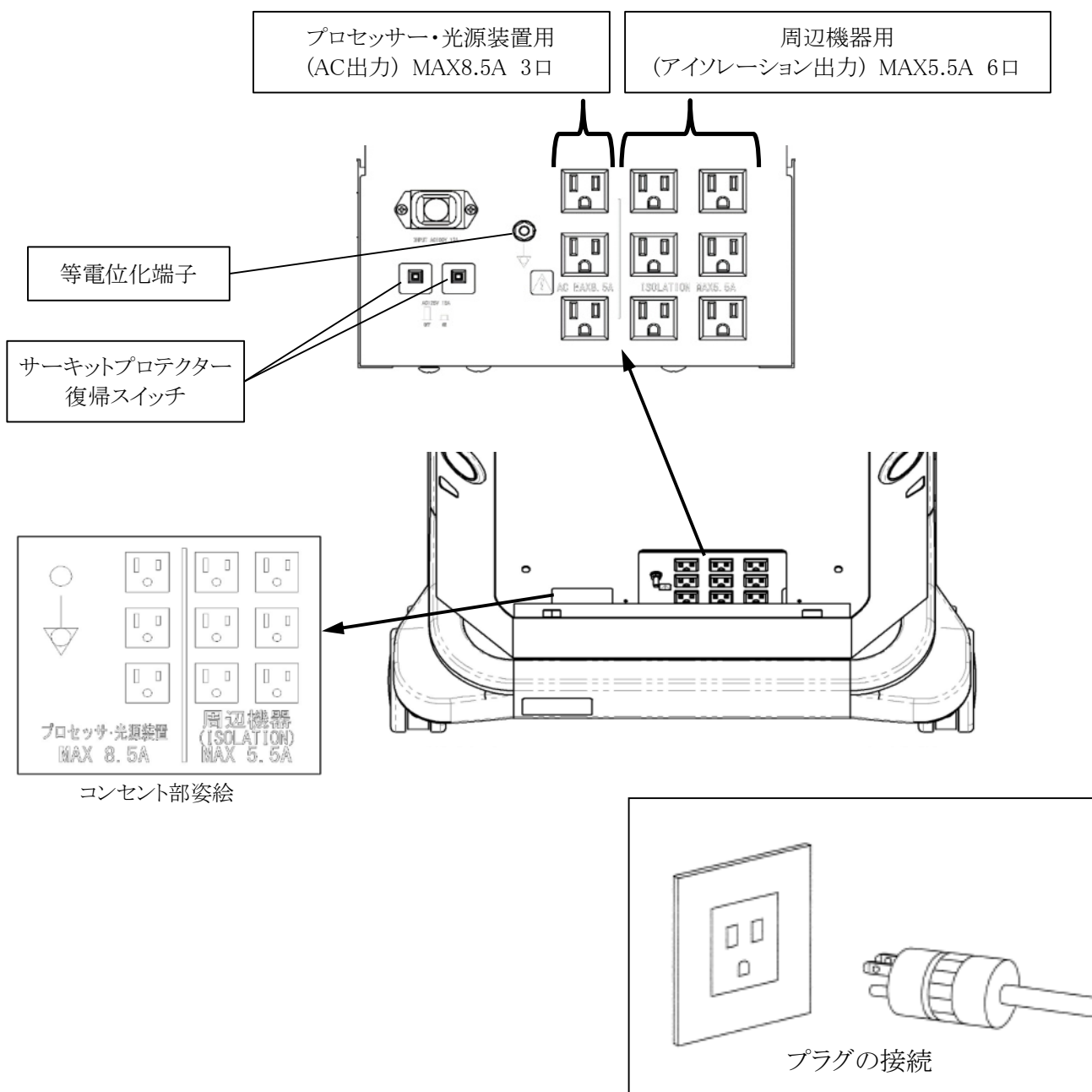
3.6 グロメットからホース等の引き込み

カッター等で切り込みを入れ、ホースを通します。



機器の設置

3.7 電源の接続



PC-010及びPC-020の電源プラグは、必ず保護接地付コンセントに接続してください。また、電気手術器の電源はPC-010及びPC-020から取らないでください。

電源ボックスのコンセントには、プロセッサおよび光源装置用の「AC出力」と、その他周辺機器用の「アイソレーション出力」があります。

機器の電源接続はカートの本スイッチをOFFにし、電源プラグを抜いた上、接続する機器の電源容量を確認し、指定のコンセントに接続してください。

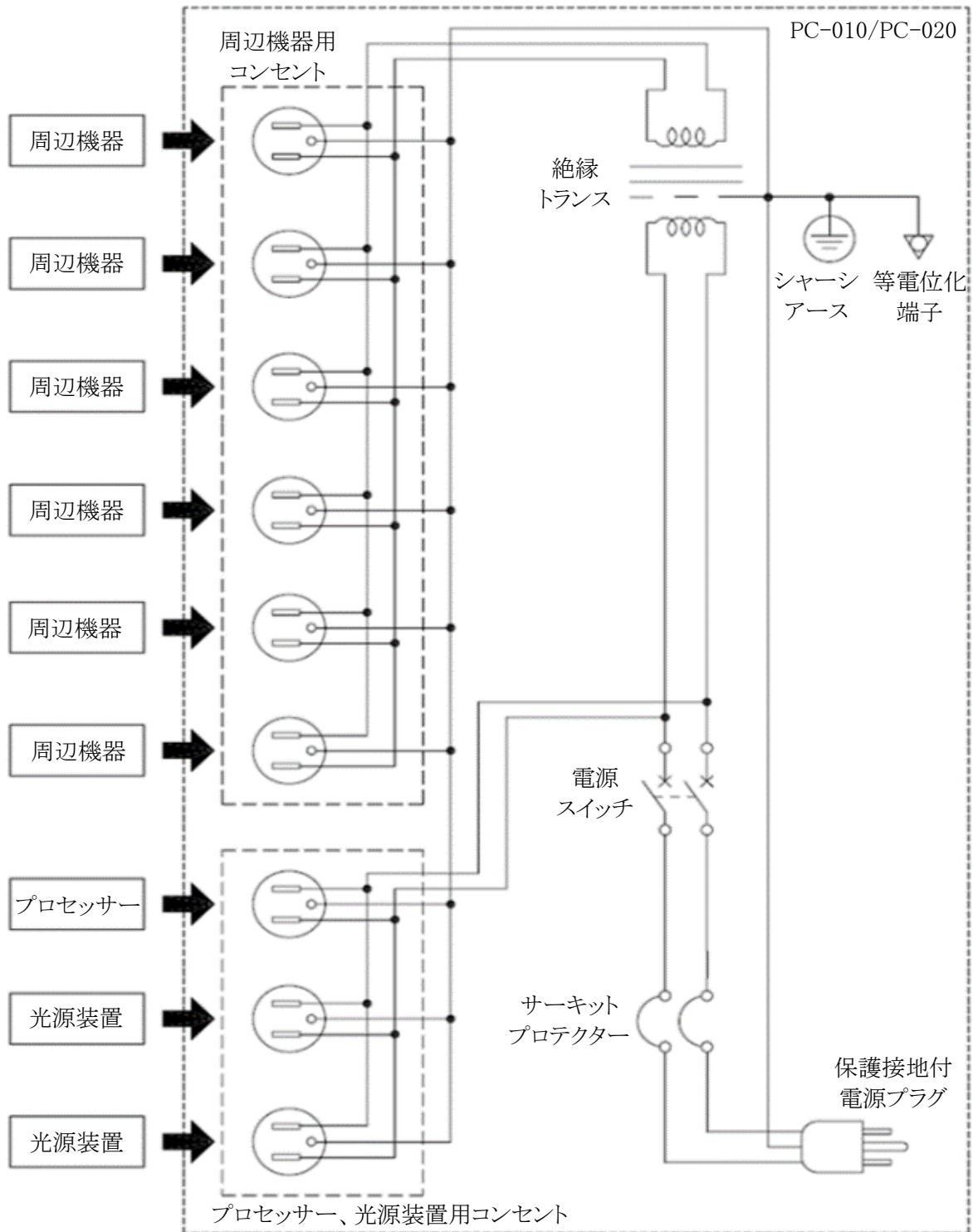
サーキットプロテクターを復帰する時は、カートの本スイッチをOFFにし、電源プラグをコンセントから抜いてください。サーキットプロテクターの復帰スイッチは遮断動作後、10秒以上経過してから押してください。

搭載機器の等電位プラグは、電源ボックスの等電位化端子と必ず接続してください。

間違った使い方をされると、感電事故や火災の原因になるおそれがあります。くれぐれもご注意ください。

⚠ 警告

電源プラグは、保護接地付コンセントに接続してください。
 電動手術器の電源は、別の回路からお取りください。
 医用として安全性が確保されていない周辺機器は、必ずアイソレーション出力をご使用ください。
 搭載機器の等電位プラグは、電源ボックスの等電位化端子と接続してください。
 このマルチタップに電気機器を接続するとMEシステムが構成され、その結果安全性のレベルが低下することがあります。



使用方法

第4章 使用方法

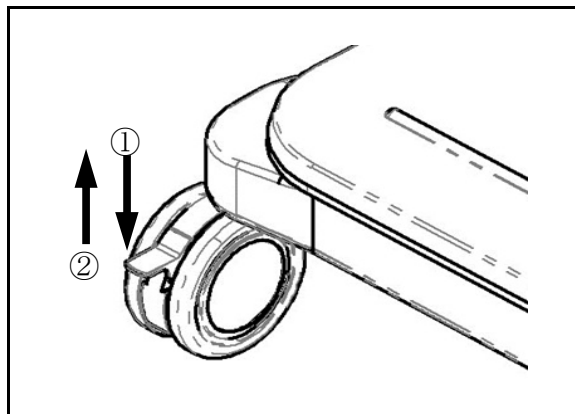
4.1 カートの固定

⚠ 注意

カートが転倒してケガをするおそれがあります。
システムの設置時、および使用時はカートのキャスターをロックしてください。

①キャスターロックレバーを足で下に押し、キャスターを固定します。

②固定を解除する場合は、キャスターロックレバーを足で上にはね上げます。



4.2 スコープハンガーの高さ調整

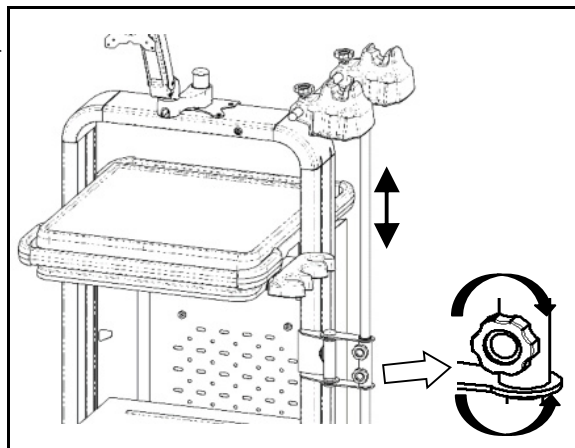
⚠ 注意

感染のおそれがあります。
内視鏡の挿入部を床につけないでください。

注意

内視鏡が脱落するおそれがあります。
高さを調節する場合は、スコープハンガーを片手で押さえ、ハンガーロックつまみを緩めてください。

スコープハンガーを片手で押さえ、ハンガーロックつまみを緩めます。ハンガーの高さを調節し、再度ハンガーロックつまみを締め込み固定します。



使用方法

4.3 カートの移動

⚠ 注意

カートが転倒してケガをするおそれがあります。

カートの移動は2人以上で行ってください。

カートを移動させる際は、スコープハンガーから内視鏡を外してください。

カートを段差をまたいで移動させる場合は3人以上で行ってください。

ガスシリンダーを載せた状態で段差及び傾斜のある所を移動させないでください。

カートの高荷重アームにモニターを取り付けたのみの状態(内視鏡プロセッサ、光源装置、超音波観測装置等を搭載していない状態)での移動はしないでください。

移動時は高荷重アームを移動姿勢(モニターがカートの中央付近になるよう)にし、付属のバンドで固定してください。

注意

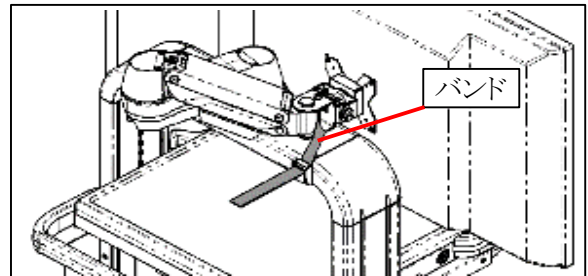
内視鏡が脱落するおそれがあります。

カートを移動させる際は、スコープハンガーから内視鏡を外してください。

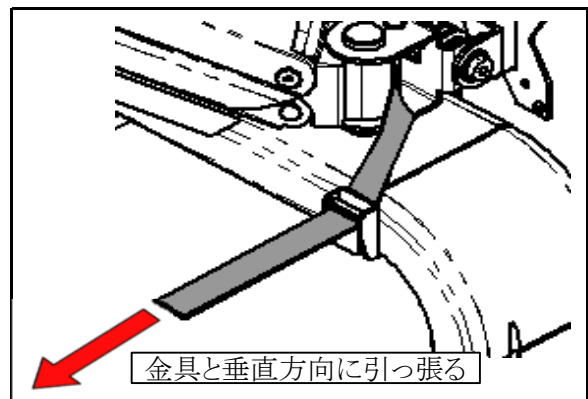
水がこぼれて転倒し、ケガをするおそれがあります。

カートを移動させる際は、送水タンクを取り外してください。

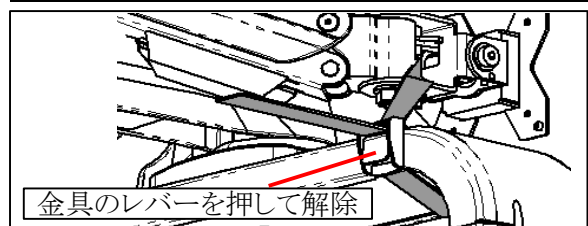
①モニターをカートの中央付近になるよう高荷重アームを調整し、バンドで固定します。



※ベルトは金具に通した後、金具と垂直方向へ引っ張ります。

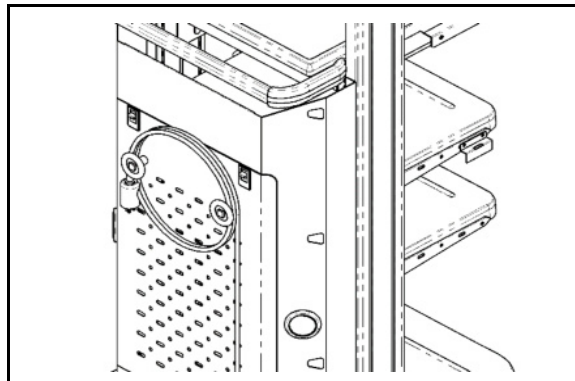


※ベルトの固定を解除する場合、金具のレバーを押し、ベルトを緩めます。



使用方法

②キャスターをロックしている場合は解除します。電源コードを巻いてケーブルフックに掛けます。



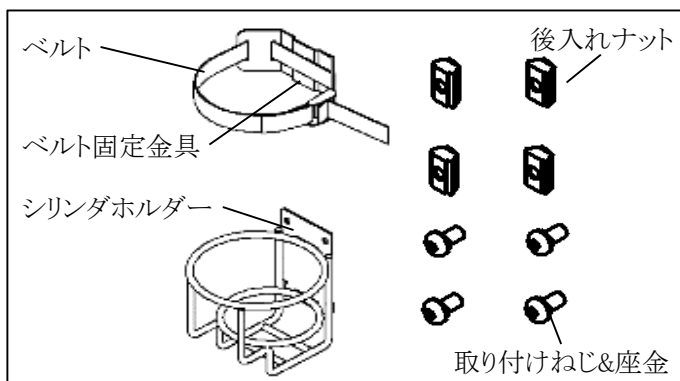
③ハンドルを持って移動します。カートの移動は2人以上で行います。段差をまたいで移動させる場合には、段差に対してハンドルの左右側に1人ずつ配置し、キャスターが1つずつ段差を超えるように対角方向へ動かしてください。このとき機器の落下を防ぐため、カート後側に1人配置してください。(段差の乗り越えは3人以上で行います。)

④移動が完了したら、キャスターをロックします。

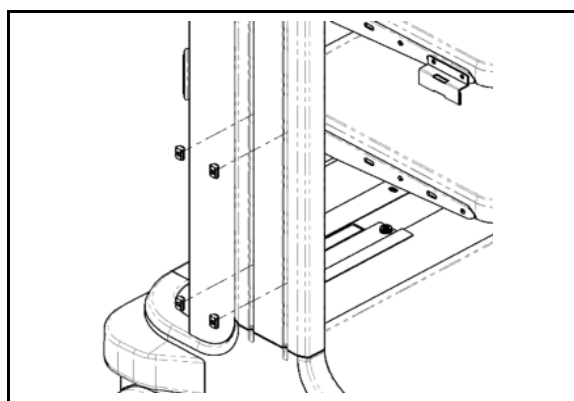
第5章 オプションの取り付け

5.1 シリンダーホルダー

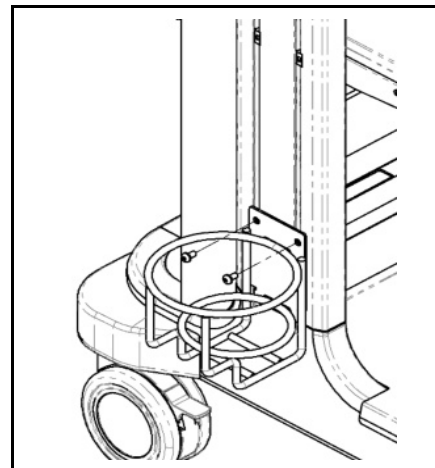
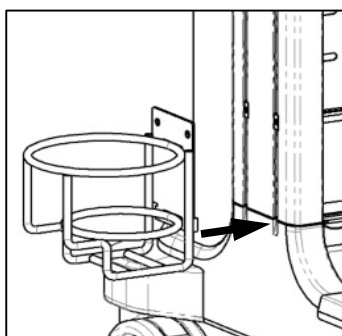
①各部の名称及び付属品



②カートの取り付ける側の支柱に後入れナットを入れます。後入れナットの入れ方は11ページ3.4を参照してください。

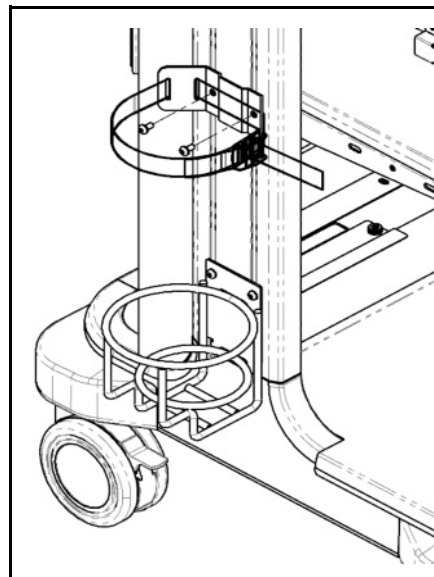
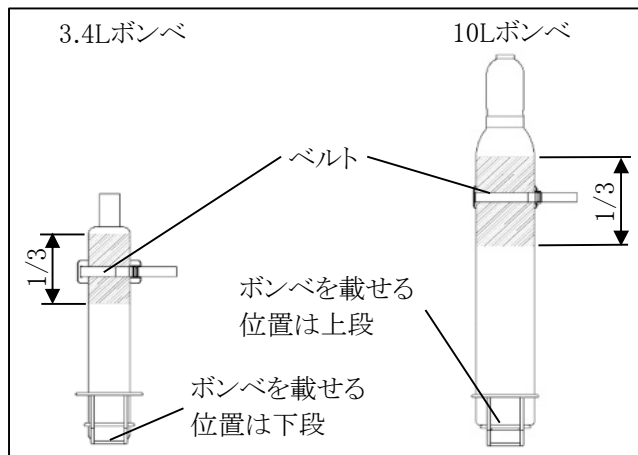


③シリンダーホルダーの突起を溝底に当て、後入れナットの位置を修正し、付属のねじで固定します。使用する六角レンチ対辺4mmはカートに付属のものを使用してください。

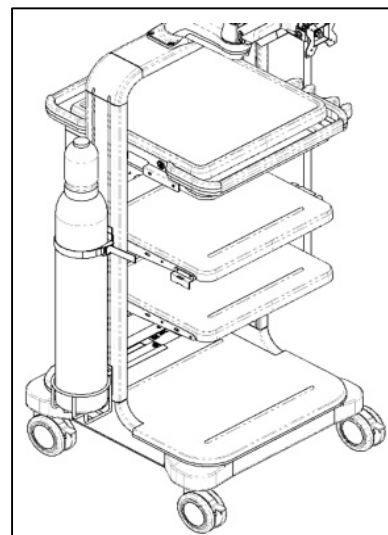
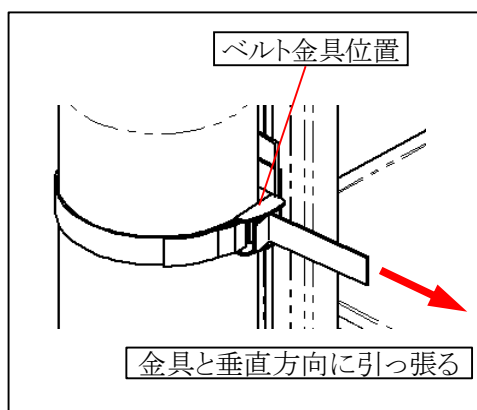


オプションの取り付け

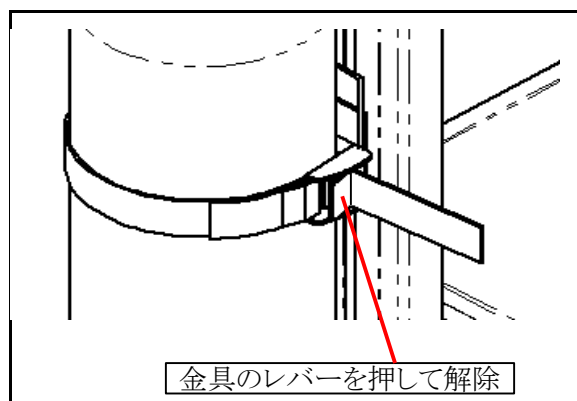
④ベルト固定金具のベルトを緩めてねじ用穴を見えるようにし、ポンベの高さに合わせて付属のねじで固定します。固定位置はポンベの円筒部上側1/3(下図斜線部分)の位置にしてください。



⑤ポンベを設置し、ベルトを締めて固定します。ベルトの金具はベルト固定金具に接する位置にし、ベルトの金具を抑え、ベルトを垂直に引っ張ってください。



⑥ポンベを降ろす際に、ベルトを緩める場合には、金具のレバーを押します。



⚠ 注意

ポンベが転倒し、ケガをするおそれがあります。
 ベルトは必ず締めて固定してください。
 3.4Lおよび6.7Lおよび10L以外のポンベを設置しないでください。

オプションの取り付け

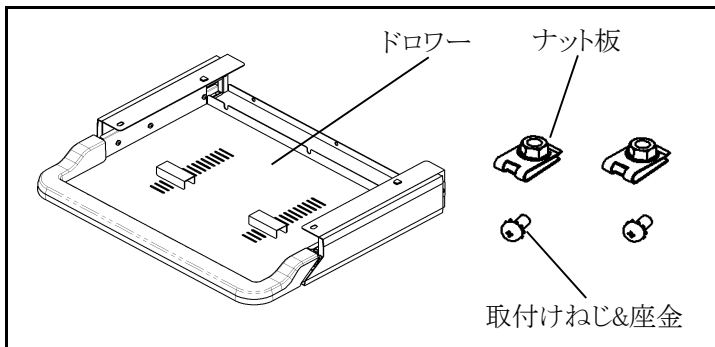
5.2 追加ドロワー

⚠ 注意

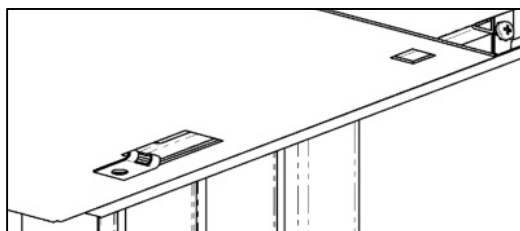
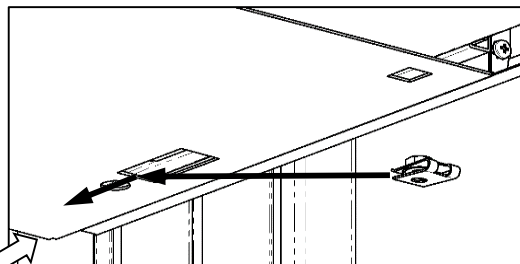
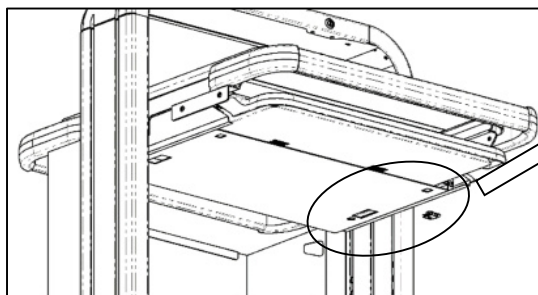
追加ドロワーが落下してケガをするおそれがあります。
追加ドロワーの取付けは2人で行ってください。

①各部の名称及び付属品

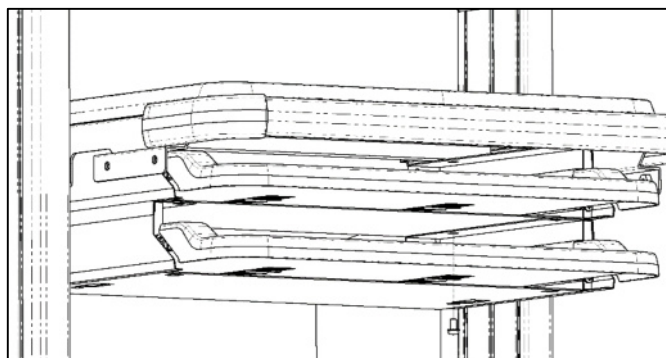
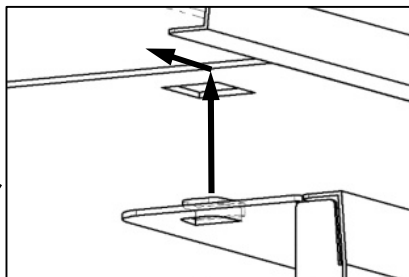
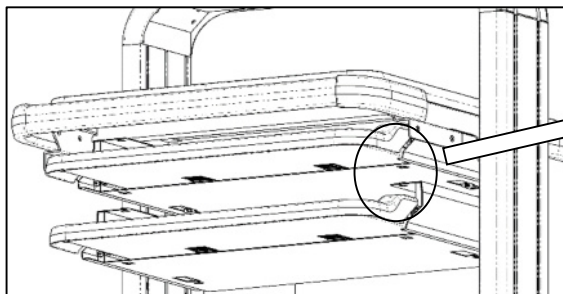
カートの背面パネルを外した状態で、2人で取付けを行ってください。



②カートに付いているドロワー後側の角穴に方向に注意しながら(凸側が上)ナット板を入れます。丸穴からナットのねじ穴が見えていることを確認します。



③追加ドロワーの突起をカートのドロワー前側の角穴に差し込み、付属のねじで固定します。

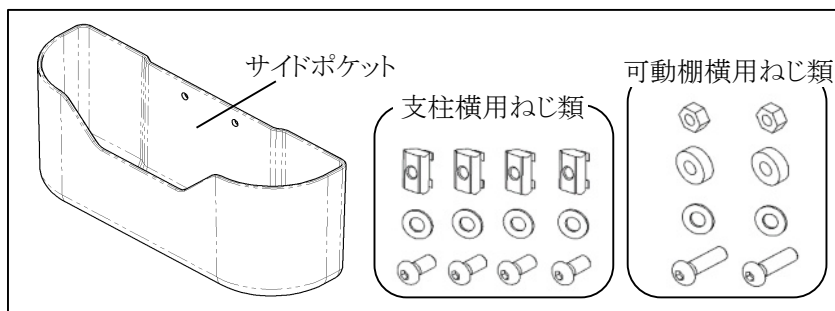


オプションの取り付け

5.3 サイドポケット

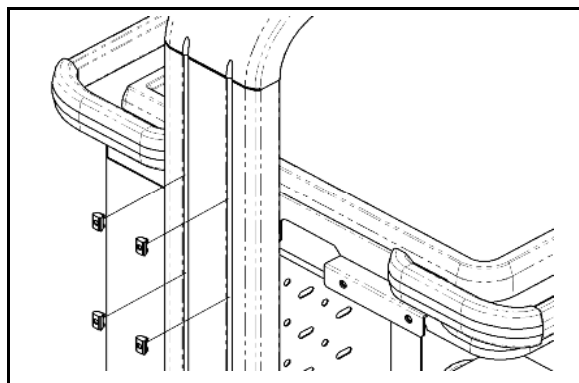
①サイドポケットは支柱横か可動棚横のどちらにも取り付け出来ます。

注意
サイドポケットが破損するおそれがあります。 耐荷重は3kgです。耐荷重以上のものを入れないでください。

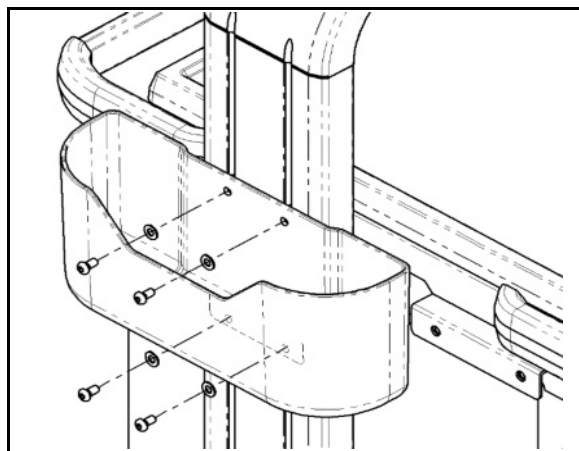


②支柱横に取付けの場合

カートの取り付ける側の支柱に後入れナットを入れます。サイドポケットのねじ穴と位置が合うように調整してください。後入れナットの入れ方は11ページ3.4を参照してください。

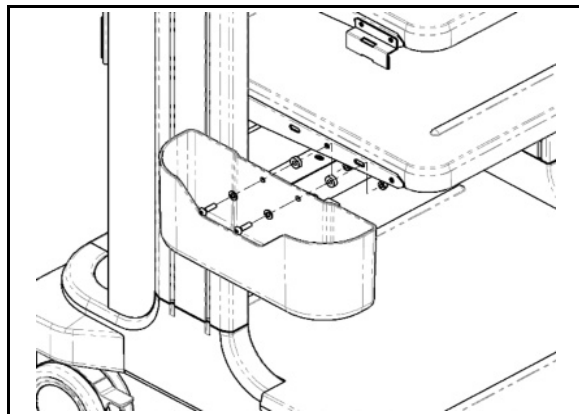


付属のねじ4本で固定します。使用する六角レンチ対辺4mmはカート付属のものを使用してください。サイドポケットが割れないよう、締め過ぎに注意してください。



②可動棚横に取付けの場合

付属のねじ・座金・スペーサ・ナットで固定します。使用する六角レンチ対辺4mmはカート付属のものを使用してください。サイドポケットが割れないよう、締め過ぎに注意してください。



第6章 保管とメンテナンス

6.1 使用後のお手入れ

警告

火災・感電の原因となります。

カートのプラグ及びコンセント、接続機器のプラグは定期的に乾いた布で拭き、ほこりや汚れを取ってください。

注意

変質・変形の原因となります。

カートの表面を有機溶剤で拭かないでください。

故障の原因となります。

指定された方法で、清掃を行ってください。

本体は流水洗浄や浸漬消毒をしないでください。

消毒、殺菌、滅菌は行わないでください。

ほこりがたまったり汚れがついた場合には、ガーゼなどの柔らかい布で軽く拭いてください。

汚れがひどいときや落ちにくい場合は、水で5～6倍に薄めた中性洗剤を少量湿らせたガーゼで、軽く拭いてください。

カートに体液や血液等が付着した場合は、アルコールガーゼで拭き取ってください。

6.2 保管するには

注意

故障の原因となります。

保管条件に満たさない場所には保管しないでください。

ケーブルに力の加わらない状態で、保管してください。

本製品は、下記の条件を満たすところで保管してください。

保管条件

温度： $-10^{\circ} \sim +45^{\circ}\text{C}$

湿度： 30～95%（ただし、結露状態を除く）

気圧： 70～106 kPa（大気圧範囲）

場所： 直射日光のあたらない所

※長時間ご使用にならなかった場合は、設置時に行った動作確認をもう一度行ってください。

付録

主な仕様

定格入力	AC100V 50/60Hz 15A 保護接地付プラグ
定格出力	最大14A
保護接地付コンセント	9口 ・プロセッサ用(AC出力) 3口, 最大8.5A ・周辺機器用(アイソレーション出力) 6口, 最大5.5A
サーキットプロテクター トランス	15A 入力100V 出力100V/6A
一括ON/OFF電源スイッチ搭載	
外形寸法	PC-010:664(W)×699(D)×1484(H)mm PC-020:664(W)×699(D)×1414(H)mm (高荷重アーム、スコープハンガー含まず)
質量	PC-010:90kg PC-020:88kg
合計最大許容荷重	84kg
トップトレイ許容荷重	10kg
可動棚許容荷重	36.5kg
底棚許容荷重	24kg
高荷重アーム許容荷重	6～15kg

廃棄について

廃棄する場合は、各地域の法規に定められた手順に従ってください。

製造元 : 株式会社フジフレックス